

メンターシップカンファレンス証し

大黒智子



今回このカンファレンスに参加できた事は、私にとってとても大きな恵みでした。この恵みを沢山の方々と分かち合う事ができたらと願い、証し(文章)にさせていただきました。少し長いですが、御一読くださると感謝です。

このメンターシップカンファレンスでは、**キリストの栄光をあらわす仕えるメンターとして成長すること**を目的として、①メンタリングとは何か、②メンターとして大切な資質はどのようなものか、そして③具体的なメンタリングのあり方について学びました。

メッセージでは、**キリストの弟子として成長する事**、また**キリストの弟子を作っていく事**への大きなチャレンジが語られました。ワークショップでは、**他者を知るためには、まず自分を知らなければいけない**、という内容のものと、**アクティブリスニング「聴く」**ということについてのものがありました。その他にも、スキット、ロールプレイ、スモールグループなどの時間を通して、キリストにある者として成長していく事の大切さについて考え、また自分が相手の成長を励ますために何が出来るのかを考え、祈るときを持ちました。

【恵みの8割は参加する前に！？】

今回このカンファレンスに、私は日本から一人で参加しました。多くの友人に声をかけましたが、アトランタまでは遠く、日本のこの時期（年末年始の長期休暇と、成人の日の連休の後）は忙しくもあり、またとても休みづらい。。。私自身も状況を考えて”参加は無理だ”と、カンファレンスへの興味はあったものの、祈ることもしないであきらめていました。

そんな中、このカンファレンスの講師の一人である荒木泉さんと昨年10月に大阪で会う機会がありました。色々な事を話す中で、このカンファレンスへのお誘いをものすごく気軽に（まるでそこら辺に行くような感じで）受けました。笑

でもこの事をキッカケに、そういえば祈りもしないで決めていたな・・・と思われ、無理かも知れないけどちゃんと祈ってみようと思いました。そして祈っていく中で最終的に、「このカンファレンスに行かなければ、私は人生の目的を見失う...」と思われ、参加する気持ちを固めました。と言っても、新年明けて間もない時期の長期休暇の申請はめちゃくちゃ言い出しにくい...。結局、なかなか勇気が出ず、上司に休暇の申し出をするまでに三日を要しました。

恐る恐る、「あの～、ちょっとご相談が...」と上司に持ちかけるやいなや、「ん、アメリカ？」との返事。

（※ちなみに、この時点ではまだ休暇の事もアメリカでのカンファレンスの事も話していません）

そして、「業務に支障なかったら、良いんじゃないか。」と、驚くほどあっさりとOKを頂きました。

この出来事を通して神様は、状況を越え、そしてビビる私の思いや考えを遥かに越えて、道を整えひらく事の出来るお方なんだと教えられました。私にとって、この体験だけでも“カンファレンスの恵みの8割くらい受取り済みになったんじゃないかと思うくらいでした。

【外に出て内を見る】

メインスピーカーの大上高弘先生のメッセージからは、“信徒が伝道する事”が日本ではまだ標準化されていない、当たり前になっていない現状が多くあると聞き、驚きました。というのも、私の通う教会では、信徒が伝道し救いへと導く『聖書とは』という小冊子を使った個人伝道の方法があり推奨されているからです。私自身も高校生の時に個人伝道の方法を友達と一緒にマスターする機会が与えられ、それをそこまで特別な事とも思っていませんでした。このメッセージを通して、自分の教会の良い風土を再発見でき感謝でした。

【教会を離れる理由NO.1は...】

大上先生のメッセージの中で衝撃を受けたことの一つは、『信徒の教会を離れたいと思った理由』について。大上先生はこれまで色々な教会を対象に『教会を離れた理由』についてリサーチされてきたそうで、その理由第一位はなんと「人間関係のもつれ」という理由を越えて、「**成長できないと思ったから**」との調査結果だったそうです。驚きました。

でも私自身を振り返ってみると、教会を離れたい！とまでは思っていませんでしたが、「このままだと教会や神様から離れてしまうかも・・・」と不安を感じたことがあった事を思い出しました。28歳頃だったと思います。礼拝出席や奉仕、個人でのデポジション、交わりや小グループなども持っていました。でも、なにか成長という面で頭打ちしているというか、これ以上は難しい・・・とも感じていました。

そこで牧師に「成長したいと思っているんですが、私の成長を手助けしてくださる方(先輩)を紹介して欲しい。」と相談しました。そこで紹介されたのが、初代牧師夫人の高木玉子先生でした。

そこにもう一人教会の友人が加わり、三人での学びと交わりの期間が2年くらいありました。正直で率直な思いや疑問を話したり(ぶつけたり!?)、玉子先生と神様とのこれまでの歩みについても赤裸々に話してくださいました。今振り返ってみても、本当に祝福された時間を持つ事ができました。

“メンター”や“メンティー”という言葉はまだ知りませんでした。確かに玉子先生は私のメンター、私はメンティーでした。(ちなみに先日、その事の感謝を玉子先生に改めて伝えたところ、「メンターとは何ですか?」と聞かれました。笑) 名称については玉子先生も私も知りませんでした。このような良きメンターと出会わされていた事実に、改めて神様に感謝しました。

【実行する弟子であること】

大上先生のメッセージから心に響いたことのもう一つは、「弟子作りは知識の伝達ではありません!」ということでした。イエス様が命じられた事を守り、行うように教える。またその連鎖が弟子訓練、弟子作りであると。ほんとうにその通りだと思いました。“心の中で思っていた事”と“言葉”とが結びついて“納得!”という感じでした。

【意図的に!個人的に!】

今回のカンファレンスでは、“メンターシップ”ということを中心に弟子作りについて学びました。

「弟子作り=メンターシップ」ではありませんが、「弟子作りにおいてメンターシップはとても有効な、そして必要な事」だと思いました。

そして意図的であること、しっかりとメンターとメンティーの間での目的が明確である事が大事だとも思いました。きっと誰かの成長を願い、なんらかの助けをしている方はいらっしゃると思います。ただ、受ける側にとって、その意図が伝わっているか否かで、その人のその後の歩み方はかなり違って来るかも知れません。もちろん、伝えたからと言ってそうなるとも限りませんが。

でも少なくとも、何のためか、目的や意図を伝えられたなら、メンティー自身がそのことについても主体的に考えたり、学びながら考えていく事や継承や循環についても考える道が広がると思いました。

個人的に関わることのメリットもそこにあると思います。メンターはメンティーの人生を支配したり指図する人ではなく、メンティーが神様にあって成長することを助ける人です。時には教えたり指導したりすることもあると思いますが。

【赤ちゃんポスト】

セカンドレベル・ミニストリーの総主事のポール真弓さんからの話の中で、赤ちゃんポストの話がありました。

(赤ちゃんポストとは、諸事情のために育てることの出来ない新生児を親が匿名で病院や施設に預けるシステム。)

「もちろん、事情があって育てられない赤ちゃんの受け入れ先がある事はすばらしい事です。ですが、産まれた後の関わりが途絶えてしまう...、そして、捨てられた、という現実。悲しいですね。実はクリスチャンの世界でもこのような事が起こっていませんか?」との問いかけがありました。あるある!そう思いました。救われた後の霊的な状態。

霊的な事においても、その人がしっかりと自立できるように支援すること、これは“あったら良いな”というレベルの事ではないと思いました。成長するために必要な事です。

私自身を振り返っても、本当に多くの人の祈り、そして個人的にも具体的な援助や励まし、学びの機会がありました。だからこそ、今私は神様に繋がっている。そう思いました。個人的に関わる事や、その人の霊的成長を実際的に助ける人につないでいく事がとても大きなことだと感じました。

【違いを越えていく】

「違っている→あきらめる」のではなく、「違っているからこそ知っていく、コミュニケーションを取って行く事の大切さ」についても考えさせられました。

そもそも日本人の多くは、「他者と自分は違っている」という事の基本認識が低く、違いを発見した場合の反応が「知る」ことよりも「排他的」になる事が多いんだと思われました。そもそも「他社と自分は違っている」という事の認識を持つことや、そこからコミュニケーションを始めていく態度が関係を深めていくのに重要だと教えられました。

【なんでもやる!】

仕えるため、相手の成長に必要な事であれば、何だってする。

アクティブリスニング（積極的傾聴）のセッションで思ったことです。技能的、フィジカルな面について学びました。

知らず知らずやっていた事もありましたが、具体的に聞くこと、知ることによって、とても整理されました。

例えば、スカイプなどメンタリングのオンラインセッションの場合、本当に相手に伝えたい時は相手の目を見て！

でもこれ、具体的にはカメラを見つめます。笑

なので、実際の画面に映った相手の目は見ていません。見たいけど、見ない。なぜなら、相手にとって目を見られている状態とは、こちらがカメラにグッと視線を向けている時なのです。なるほど～！

あと、明るい色の服装で。笑 これも、色の効果を見方につける方法。相手にとって心をオープンにリラックスして話せる可能性があるなら、それを選択する。

仕える事って、意識のことだけじゃなく、本当に沢山の具体的で実践的なことがあり、またそれを行う、選択することが出来るんだ！と知り、学べたことは楽しい発見でした。

【メンティー体験から教えられた事】

今回のカンファレンスの中で興味深かった事の一つにロールプレイがありました。

二日間に渡り、三人一組で、①メンター役②メンティー役③オブザーバー（第三者として観察したことをフィードバックする）の各役に分かれ10分毎のセッションをローテーションで行いました。

このロールプレイの役の中で、発見というか、感動した役回りは二日ともメンティー役の時でした。

私のグループでは私が一番年上でした。

（きっと他の二人にとって、メンティー役の私に対してメンター役になってリードするのが一番やりづらかったと思います。笑）

二日ともメンティー役の私の役柄の設定は、“ちょっと反抗的!?な年下のメンティー”というものでした。

ここで実際には年下の“お姉さんメンター”を困らせるような発言をしたんですが（意地悪ですね）、彼女たちから返ってきた反応にとっても感動しました。

ここで学んだ事は、うまく返答できなくても良い！という事でした。

むしろ大切な事は、「あなたの霊的成長を応援してるし、自分に出来る事であれば喜んでそれをしたいと願っている」という事実が伝わるかどうか。伝わるかどうかは、思っていることを言葉にすること。率直に、正直に伝えること。

とてもシンプルな事だけど、二人のメンターの真剣な思いが伝わってきて、ロールプレイながら泣きそうになりました。

また、心が開き、反抗的な思いが溶け、むしろメンターの存在や援助を通して神様について行きたい！との思いが沸いてくるように思いました。自分自身の事を振り返るとそうでしたが、「神様から離れたくない」と思っていた時は、神様のことがよく分からなかったり、自分一人では行き詰まりを感じていた時だったように思います。

【受けた恵みをどう還元するか】

このカンファレンスを通して、私がいかに恵まれているかに気付かされました。

純粋に混じりけなく聖書について学べる環境や、人生の中に御言葉に根ざし本気で神様に従っている牧師や先輩クリスチャンの方々との出会い、率直に正直に語り合う事の出来る仲間存在。

私の人生になぜだか分かりませんが与えられていて、当たり前のように起こったことですが、これは当たり前なんかじゃない！！すごく大きな恵みなんだと思いました。なんて私は恵まれてるんだ……。本当にそう思いました。

【あきらめない】

私は本当に恵まれてる！！

これまで人生で私が受けてきた恵みや、今回のカンファレンスで受けた恵みを、どうにかして周りの方々にも分かち合って行きたい。そして共に神様に仕えていきたいと思われました。

だけど、こんな平凡で特別な能力のない自分に何ができるのか？と考えると、なんだか途方に暮れてしまいます。

だけど、そこは神様がなんとかしてくださり、私にもできることをさせてくださるのだから、そう思いました。

神様から受けた多くの恵み、沢山の方々にあの手この手で具体的に助けて頂いた恵み。

それらを分かち合う時、もしかしたら“独りよがり”とか“単なる暑苦しい人”とか思われちゃうかも！？

理解されない、そんな事があるかも知れないと思いました。そんな状況は結構へこたれる。目に見えて。

だけど、神様から受けた事をお返ししていくことを、あきらめたくないと思ひ祈りました。そして祈ってもらいました。

これからの私の人生も、神様の素晴らしさを味わい、そのことを周りの方々と共に分かち合いながら歩んで行きたいです。

「主のすばらしさを味わい、これを見つめよ。幸いなことよ。彼に身を避ける者は。」詩篇34：8